

■文京区新たな公共プロジェクト 成果検証フレームワーク（案）

生み出したい状況（ビジョン）	新たな公共の担い手が区と連携して地域課題を効果的に解決する	取り組むこと（ミッション）	地域課題の解決に取り組む民間・協働のプロジェクトが生まれ、持続的に課題解決に取り組んでいけるよう担い手育成と環境整備を行う
----------------	-------------------------------	---------------	---

評価対象	評価項目	区の基本姿勢	担い手の創出に向けて				取り組みのPDCAサイクルの機能
			ステージ1：新しい活動のきっかけや担い手の発掘となるアイデア創出の場を広げる (文京ミライ対話、社会起業入門講座)	ステージ2：新たな公共の担い手の事業構築を支援する (プロジェクト登録・支援、社会起業アクションラーニング講座)	ステージ3：区と担い手が課題解決の実践へ連携する (NPOとの協働、協働提案型事業)	事業構築スキームの適切な運営について	
区の運営	①協働のガバナンス 区は協働の取り組みを推進するための仕組みをつくり、運営してきたか	・提案や相談を受ける体制ができていないか	・地域課題解決のアイデアを活かせる仕組みがあるか	・事業構築支援に必要な体制が整い、職員が参画できているか	・協働相手を適切に選定し、実行できているか	・透明性・公平性、リスク管理などを適切に行い、事業を実施しているか	・スキーム全体のPDCA ・担い手と区との連携のPDCA
区・事務局の施策	②地域課題解決プロジェクトの事業構築における中間支援機能 事務局（区・パートナー事業者）が事業構築のために下記の機能を提供したり、促す場づくりができたのか ・変化促進 ・プロセス支援 ・資源連結 ・問題解決提示	・NPOや事業者の考え方、取り組み状況、課題を理解しているか ・支援に必要な体制を整えているか	・広く区民に参画を呼びかけているか ・アイデアの創出を促す場づくりができていないか	・支援対象の募集・審査・選考は適切だったか ・事業構築支援の方法は効果的であったか	・協働が効果的に進む環境整備ができていないか	・プロジェクトの実施経費を把握し、適切な支援ができていないか	・事業構築支援のPDCA
本事業を通して育成・支援・協働したプロジェクト	③プロジェクトのアウトプット 育成・支援・協働したプロジェクトは、効果的な地域課題解決の担い手になっているか	1)妥当性、2)有効性、3)効率性、4)自立発展性	対話や講座から、従来よりも効果的な地域課題解決につながるアイデアや担い手は生まれているか	行政だけでは対応できない地域課題解決を、持続する事業として実施できるようになっているか	区と担い手が個別に取り組むよりも大きな成果を出す協働ができていないか		
	④プロジェクトの生み出したアウトカム プロジェクトが生み出した波及効果は		5)社会的インパクト	アイデアは地域課題解決につながっているか	課題を抱える地域住民への好影響、社会へのモデル提示となっているか		
本事業全体の地域へのアウトカム	⑤社会的学習 地域課題の解決を効果的に行えるように、区・担い手・区民の間の学び合い、育み合いができたか。それが定着しているか		対話や講座への参加者が、地域課題の理解を深め、解決方法や担い手への関心を高めているか	事業構築のプロセスを通して、担い手や関係者は地域課題の理解を深め、解決につながる知識やノウハウを蓄積したか	区・担い手・区民らが区と担い手の協働の効果的な進め方について、知見を蓄積できているか	事業構築の成功例、失敗例などから蓄積された知見が、地域に還元できているか	本事業の改善からの治験は地域で共有されているか